



まい 京都府議会議員 小原 舞 府議会報告

おはら舞 ニュースレター



日頃は、おはら舞の議員活動に対しまして、格別のご厚情とご教示を賜り、心から感謝申し上げます。
 まずは、平成30年7月豪雨により被災されました皆様に対し、衷心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられました方々の御冥福を心からお祈り申し上げます。この度の豪雨災害は、大阪府北部を震源地とする地震から復旧・復興に向けて歩み出そうとしていたところに発生し、京都府全域で様々な爪痕を残しました。5名の尊い命が失われるとともに、河川の氾濫による床上・床下浸水をはじめ、土砂の崩落や倒木等による家屋倒壊、交通、インフラの寸断など、府内の被害は極めて甚大なものとなっております。

6月定例会閉会日(7月13日)に、平成30年度京都府一般会計補正予算案をはじめ、対象となっている全ての議案に対する賛成討論をさせていただきます。

また、平成30年7月豪雨被災復旧費106億円を含む計289億600万円の今年度一般会計6月補正予算案をはじめ計17議案が可決・同意され6月定例会が閉会いたしました。

災害からの早期復旧・復興を目指し、府民の皆様が安心・安全を実感され、全ての人がいきいきと暮らせる共生社会の実現、京都府の未来を担う子どもたちに素晴らしい地域を引き継いでいけるよう、京都府政の推進に尽くしてまいります。

引き続き、地域課題の解決に向けて現地現場主義をモットーに全力で取り組んでいきます。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



7月豪雨被害の早期復旧・復興に向けて会派で西脇知事へ緊急要望。地元舞鶴市をはじめ北部の現場や被災者の方々からの切実なお声と取るべき対応についてお伝えさせていただきました。(7月11日 知事室にて)

小原舞 拝

平成30年7月豪雨災害への対応について

現場の確認、被害の全容を把握し、関係諸機関と連携、協議、要望を行いました。

いつやってくるかわからない災害に対して、府民の皆様sの生命・財産を守るため、行政のみでなく地域住民、最前線で取り組んでいただいている自衛隊や警察、消防等の関係諸機関、災害発生時から復旧工事に尽力していただいている土木等の民間業者も一体となった取り組みが重要であります。

避難や交通等の情報伝達、情報共有のあり方についても、被災住民の体験や災害復旧の現場に従事していただいている方々の声を十分に反映して、これまでの災害対応の課題と検証を進めていくよう議会で取り組んでいきます。



高野川、伊佐津川、由良川周辺では、度重なる大規模水害を受け、堤防の嵩上げ、河道掘削、排水設備建設等が計画されています。しかし、異常気象が頻繁に起こる昨今、治水計画の見直しも含めた治水計画の早期の完成に向けて全力で取り組みます。(7月17日 高野川にて)



農林水産業、商工業関連も甚大な被害を受けました。近年、重複して災害に見舞われた農業者、担い手の方々からお声をうかがいました。(7月20日)



上福井大畑地区の土砂崩れ現場(7月17日)

避難所のあり方等も今後検討していかなければなりません。



京都丹後鉄道の被災状況の確認(7月17日)

京都府議会6月定例会(6/22~7/13)にて一般質問をいたしました

7月2日の本会議にて一般質問をさせていただきました。質問内容は、

- ①日本海側国土軸の形成と京都舞鶴港振興について
- ②つくり育てる漁業の推進と観光との連携について
- ③ダブルケアの取組について



です。西脇知事からも専門的な見地からご答弁いただきました。

答弁後のコメントのところで、舞鶴の「身近な無人島」である戸島(現在閉鎖、立ち入り禁止)の復活!利活用の提案もさせていただきました!ぜひ、録画中継をみていただくと幸いです。

<http://www.pref.kyoto.jp/gikai/>
 「京都府議会」ホームより、「インターネット中継」⇒「録画中継」⇒「7月2日 本会議 小原舞」を選択してください。*スマートフォンやタブレットからもご覧いただけます。

1. 日本海側国土軸の形成と京都舞鶴港振興について

日本海側国土軸の形成と京都舞鶴港振興に関し、次の諸点について、知事の所見を伺いたい。

1 舞鶴国際ふ頭の競争力強化には、国道27号西舞鶴道路や臨港道路上安久線等のアクセス道路に併せて、ふ頭第2期の早期整備が求められている。地方創生にはモビリティ確保が重要であり、リダンダンシー(災害にそなえ、リスク対策のため二重化すること)確保の観点から日本海側国土軸の形成と相互連携は益々重要となるが、地方のモビリティ(人々の移動の容易性(移動し易さ))確保とリダンダンシー確保、更に日本海側国土軸の形成についてどのように考えるのか。

知事答弁 京都府におきましても、日本海国土軸の形成は、京都縦貫自動車道と相まって、北部地域が日本海各都市と連携することでポテンシャルを発揮し、南北間格差の解消と府域の均衡ある発展にも繋がる重要なものであると考えております。

同時に議員御指摘のように、大地震等に対するリダンダンシー確保の上でも重要な意義を持つものであり、先日の大阪北部を震源とする地震の際にも、名神高速道路や中国自動車道が通行止めとなる中、舞鶴若狭自動車道が迂回路として機能し、災害時に国民生活と経済を支える上で役割を示したところでございます。府域の日本海国土軸を形成する高速道路として、山陰近畿自動車道のミッシングリンクの解消や舞鶴若狭自動車道等の4車線化整備が課題でございます。

既に、ネクソコ西日本により舞鶴若狭自動車道の4車線化事業が進められ、また、山陰近畿自動車道では、直轄代行で大宮峠山道路の整備が進められており、国、府、市が連携して早期完成を図るとともに、残る区間の整備に全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えております。

地域モビリティの確保につきましては、議員御指摘の「京都府北部地域連携都市圏ビジョン」に掲げられており、引き続き、分散する都市機能を結ぶ交通ネットワークの強化と公共交通の利便性向上が重要でございます。

現在、道路整備につきましては、国において京都舞鶴港へのアクセスを強化する国道27号西舞鶴道路を整備するとともに、府により都市間を連携する小倉西舞鶴線白鳥工区等の整備を進めております。

また、公共交通網の利便性向上に向け、「北近畿タンゴ鉄道沿線地域公共交通網形成計画」を策定し、事業者や市町村、さらにはDMOと連携し、通勤快速列車の増発、既存バス路線の延伸、デマンド交通の運行等に取り組んでいるところでございます。今後とも、国土強靱化に資する日本海国土軸の構築から、地域振興の基盤となります道路ネットワークや公共交通網の構築まで、国・市町村とも連携し、地域の課題に即した効果的な交通政策の推進に努めてまいりたいと考えております。

2 本年5月、釜山港セミナー in KYOTOが、両港及び関連企業の親睦と情報交換の場として京都市内で開催され、釜山港との関係強化が進む一方、コンテナ取扱量が日本全体の量に匹敵する釜山港の日本海側の受け皿となるには課題が多いと考えるが、今回のセミナーにおけるアンケート結果や関連企業からの評価はどうか。また、今後の貨物を集めるための総合的な戦略はどうか。